

新年のごあいさつ

新年あけましておめでとうございます。皆様お健やかに新春をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。さて、2020年を振り返れば、何とんでも新型コロナウイルス禍に明け暮れた一年でした。春先の「第一波」による緊急事態宣言発令と、それに伴う経済活動の大幅な落ち込み（4-6月期GDP年率-28.8%で戦後最悪）。そして、6月からの「第二波」が収束しきらないうちに10月下旬頃より始まった「第三波」の急拡大と、歳末になって突然、飛び込んできた羽田雄一郎議員の死去の報。あんなに元気だった羽田さんがコロナの犠牲になるとは、正直に申し上げて今でも信じることが出来ません。まさに茫然自失状態です。しかし、私たちはいつまでも悲嘆に暮れている訳にはまいりません。まず、新型コロナウイルスの感染拡大を一日も早く食い止めること。そのためにも、1月18日から始まる通常国会では政府の対策を厳しくチェックすると共に、新型コロナ特措法改正などの議論を通じて感染拡大の収拾策を具体的に提案して参ります。その一方で、この4月には羽田議員死去に伴う参議院長選挙区の補欠選挙があり、また秋までには必ず衆議院の解散総選挙もあります。羽田孜元総理とご子息の雄一郎議員が、親子二代にわたって生涯を捧げた「政権交代可能な政治制度確立」の遺志を我々が引き継ぎ、今こそ実現させなければなりません。そのためにも今年1年、全身全霊をかけて政治活動を続ける所存ですので、皆様におかれましては、どうか変わらぬご支援ご支持を賜りますよう、何とぞ宜しくお願い申し上げます。

参議院議員 **杉尾秀哉**



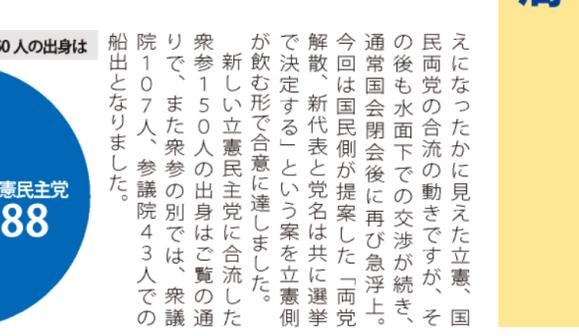
▲菅新政権発足 ▲菅首相就任式

憲政史上最長を記録した安倍前総理が、持病の悪化を理由に突如 自ら長期政権の幕を下ろしました。しかし、後の「桜を見る会」を巡る検察捜査の進展や、新型コロナを巡る政策の迷

2017年のいわゆる「希望の党」騒動で分裂したままの旧民主・民進勢力を再び糾合し、政権交代を目指す「核」となりうるかが、我々に課された最大の課題の一つです。今回、代表選挙では、党員やパートナー・サポーターといった制度がまだ整理されていないことから、国会議員のみでの投票となりました。しかし、党の組織が整備された暁には、可及的速やかにフル規格での代表選挙を実施すべきと考えます。なお、合流新党の政策については後程詳しく説明します。

安倍総理辞任と 菅新政権スタート
 8月28日 安倍総理が辞任の意向を正式表明。「持病の潰瘍性大腸炎が再発し、国民の負託に自信をもって応えられる状態ではなくなった」
 8月29日 菅官房長官が二階幹事長に総裁選への出馬意向を伝達（9月2日出馬表明）
 9月14日 自民党総裁選挙で菅氏が新総裁に選出（菅氏377票、岸田政調会長89票、石破元幹事長68票）
 9月16日 首班指名選挙の結果、菅氏が新総理に。菅新政権スタート

合流新党 「立憲民主党」発足
 7月15日 旧立憲民主党の福山幹事長が旧国民民主党の平野幹事長に、両党解散の上、新党を結成する案を提示（8月24日に合意）
 9月10日 代表選挙と党名決定選挙を実施、枝野代表と「立憲民主党」決定（代表選枝野幸男107票、泉健太42票）（党名選立憲民主党94票、民主党54票、その他1票）
 9月15日 合流新党「立憲民主党」結党大会
 10月18日 立憲民主党新県連発足、代表代行就任（代表は篠原孝衆院議員）



通常国会閉会後の激動の政局



▲菅新政権発足 ▲菅首相就任式

走と支持率の下落などを考えると、この安倍前総理の説明を額面通りに受け取ることが出来ません。一方、安倍長期政権を官房長官として支えた菅氏は、「安倍政治の継承」を掲げて自民党総裁選で圧勝。第99代内閣総理大臣に就任しましたが、この過程を見るとまさに古色蒼然とした昭和の時代の「自民党派閥政治」が、そのまま復活したかのようです。今やキングメーカーとなった二階幹事長と、菅総理の関係がこのまま続くかどうかが政局の力を握っています。

災い転じて...
 冒頭も書いたように、昨年は新型コロナ禍に明け暮れた1年でした。例えば、一昨年の台風19号被害と、それに続く暖冬・少雪、そしてコロナ…。令和に

国会内外での活動
 旧立憲民主党の時から、新型コロナ感染に十分な注意を払いながら、国会の内外で精力的な活動を続けて来ました。まず、院内の活動としては新型コロナ（感染拡大、持続化給付金、家賃支援、GoToトラベル・イートec）や、桜を見る会、学術会議問題、野党ヒアリングで政府の姿勢を追及すると共に、憲法と人権や、経済政策、デジタル政策など多種多様なテーマでの勉強会などに積極的に顔を出し、政策の勉強と自己研鑽に努めました。



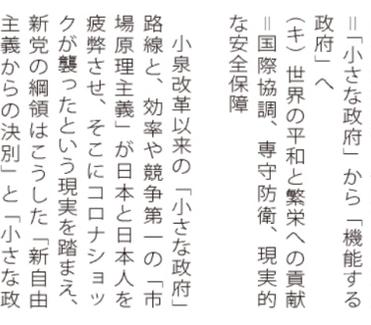
▲菅新政権発足 ▲菅首相就任式

新しい立憲民主党が 目指すもの
 新しい立憲民主党の「綱領」は「基本理念」Ⅱ党としての「理念」と「私たちのめざすもの」Ⅱ「政策の基本方針」より成り立っています。
 1. 基本理念
 立憲民主党は、立憲主義と熱議を重んじる民主政治を守り育て、人間の命とくらしを守る。国民が主役の政党です。
 私たちは、「自由」と「多様性」を尊重し、支え合い、人間が軸となる「共生社会」を創り、「国際協調」をめざし、「未来への責任」を果たすこと、を基本理念とします。
 私たちは、この基本理念のもと、一人ひとりの日常のくらしと働く現場、地域の声とつながり、明日への備えを重視し、国民の期待に応える政権党となり、この基本理念を具現化する強い決意を持って立憲民主党を結党します。

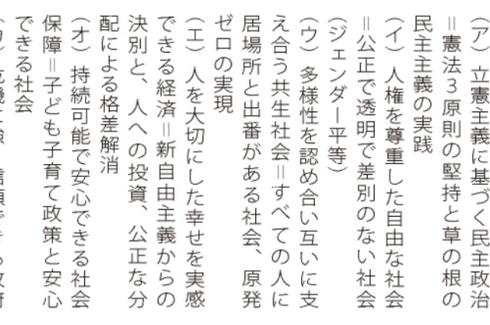
この「基本理念」の中で謳われている党の理念は「日本国憲法の実現」と、「国民の命とくらしを守る」ことです。そして次の5つのポイントを挙げます。
 (1) 民主主義を発展させること
 (2) 国家よりも個人を優先すること
 (3) 自由と多様性を何よりも重視すること
 (4) 武力や経済力に依存しない対外姿勢
 (5) 国力に相応しい役割を果たす
 その上で綱領は、政策の基本方針として

なつてから散々な出来事が続いています。しかし、歴史を紐解くと別の面が見えてくるようにです。新型コロナウイルスのような感染症に人類は過去何度か見舞われましたが、実はこうした感染症が人類を発展させる原動力ともなりませんでした。例えば14世紀にヨーロッパで大流行したペストⅡ黒死病。当時、ヨーロッパの人口の1/3が死亡したと言われます。しかし、ペストにより多くの人命が失われる中で人々の価値観に大きな変化が生じ、これがマルティン・ルターによる宗教改革や、ルネッサンスの「文化の華」が開く大きなきっかけとなったとされています。また、ペストの流行は深刻な労働力不足をもたらした。これが契機となって農民がそれぞれ工夫して成果を上げるようになったことが、資本主義経済につながったと言われます。

最後にありますが、亡き羽田雄一郎議員は誰よりも子供が好きで、「次の世代のために」を信念に政治活動を続けて来られました。我々はその羽田先生の遺志を継ぎ、思いを実現できるように全力を尽くしたいと思います。



▲マルティン・ルター



▲ペストに苦しむ人々